

「先生が税理士試験で苦労されたことは？」

●アッシュさんからの質問

今年の4月から滋賀大学の経済学部に入学することになった者です。柴山桂太先生に会えるのが楽しみです。西田さんへの憧れもあり、将来は税理士の資格を取りたいと思っています。受験勉強の間も西田さんの出る番組やチャンネル桜はよく見ていたのですが、それが良い息抜きになりました。そこで、西田さんの受験生時代の苦労話や、税理士の資格を取るまでに大変だったことなどを教えて頂きたいです。

●西田昌司の答え

ご入学おめでとうございます。

私が滋賀大学に入学した頃、滋賀大学は国立二期校であり、国立一期校である京都大学や神戸大学に落ちた人が滋賀大学に入るパターンが多かったと思います。経済学部の学生数は1学年で330人だったと記憶していますが、男子学生の数が圧倒的に多かったです。私の学年は女子学生が比較的多かったのですが、それでも10人程度であり、ほとんど男子校と言ってもよい雰囲気でした。経済学部の彦根キャンパスは琵琶湖のほとりにあって彦根城に隣接しており、環境的には恵まれていましたが、周りに遊べる場所もない田舎で、女性にまつわる楽しい思い出等はほとんどありません。

大学に入る前から何かの資格を取ろうと思っていました。大学は経済学部でしたから会計士になる道もあったのですが、税理士試験は科目合格制度があり、一発勝負に弱い私は税理士を選びました。大学3年の時に税理士になろうと決意し、大学3年の夏休みが終わった直後から勉強を始めました。税理士試験は毎年8月にありますが、大学4年の8月の試験で簿記論・財務諸

表論・相続税法の3科目には合格しましたが、法人税・所得税の2科目は不合格になってしまいました。やるからには一発で5科目合格を目指し、一日に10時間は勉強しましたから、大変にショックでした。

卒業してからは会計事務所に勤めながら一日4時間程度は勉強しましたが、勤め始めてからの最初の試験ではちょっと遊んでしまい法人税・所得税のどちらも不合格でした。その次の年の試験は準備万端で臨みまして、試験を受けた直後は法人税・所得税のどちらも完全に合格したと思ったのですが、所得税で問題の「読み違い」をしてしまいました。と言うのも、試験が始まる前に配られる問題は、ページを開けなくても文字が透けて見えますので内容がわかります。その時点で「おっ、これは自分の知っている内容で、完璧に書けるぞ」と喜び勇み、試験開始と同時にろくに問題も読まずに論文を書き始めましたが、所得税の問題の「生計を一にする親族については書かなくてもよい」という箇所を見落とし、誤って生計を一にする親族に関しても沢山書いてしまい、所得税が不合格となりました。

結局、5科目全てに合格するのに5年かかってしまい、不本意な結果となりました。税理士試験の勉強については、大学受験とは異なり鬱陶しい思い出しがありません。何よりもまず、税理士の資格を取ろうと決意するのに長い時間がかかりました。大学に入って、周りの人が遊んでいるのに自分だけが勉強する気もしません。一度勉強を始めてしまうとそこから逃れるには、諦めるかあるいは合格するかの2つの道しかありません。今振り返ると大した苦勞ではなかったのかもしれませんが、当時は非常に苦しく感じられました。

今回の質問に対しては、昔を思い出しながら答えさせていただきました。大学に入学が決まった今に、大学に入ってから勉強をしようというアッシュさんには頭が下がる思いです。ぜひ頑張ってください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>